

障害者、65歳で負担増

介護保険移行の影響調査（きょうされん）

65歳になった障害者が介護保険に移行することで、使っていたサービスの量が減ったり自己負担が増えたりするケースが各地にあることが9月17日、きょうされんの調査で分かった。厚生労働省は介護保険優先を原則としつつ障害福祉での対応を認めるなど配慮するよう通知しているが、実際には市町村によって差があった。

調査は5～7月、きょうされんに加盟する就労継続支援、生活介護などの事業所1,833か所を対象に実施。714か所（利用者総数2万1,760人）の回答を得た。このうち介護保険優先原則の対象者1,638人（40歳以上の特定疾病者455人を含む）について影響を調べた。

その結果によると、居宅介護や重度訪問介護など訪問支援では、障害福祉での支給を打ち切られた人が有効回答289人のうち62人（22%）いた。介護保

険を優先としつつ障害福祉での訪問支援を併用しているのは202人、障害福祉単独の利用は25人だった。

日中活動支援では1,326人のうち打ち切られたのは22人で、高齢者デイサービスを併用しているのは296人、障害福祉で利用しているのは1,008人。障害福祉サービスを継続しているケースが多かった。

これらを費用負担に関して見ると、2011年度から非課税世帯は無償化するなど負担軽減されているが、介護保険に移行させられたことで自己負担が発生した人が訪問支援で86%、日中活動支援では23%いた。

きょうされんは、機械的に年齢や疾病によって制度が変更され生活の水準と質が下がるのは問題だとし、問題の緩和を求めている。

（福祉新聞・第2686号 2014年9月29日）

お知らせ

オリジナル動画で解説 ADL評価法FIM講習会（西日本公式第12回）

「FIMを活用した予後予測法」

講習会は「入門編」ですが、施設内での評価の統一や知識の確認、そして一歩踏み込んだFIMの活用などのためにご参加ください。

日時：2015年1月31日（土）13：30～17：10（予定）

会場：兵庫医科大学平成記念会館（兵庫県西宮市武庫川町1-1）

内容：FIM（機能的自立度評価法）ver. 3.0の評価基準とFIMの応用例

*FIM初心者対象です。従来の講習会の内容に、オリジナル動画を追加してバージョンアップし、丁寧にわかりやすく、解説いたします。今回は、FIMを使った予後予測などの応用例についての講義を追加します。

プログラム：13：30～14：05 総論および運動項目（乗車、移動、食事、整容）（35分）/14：05～14：20 運動項目（排泄コントロール）（15分）/14：30～14：45 運動項目（トイレ動作、清拭・更衣）（15分）/14：45～15：25 認知項目（40分）/

15：40～16：10 具体例を通したFIMの採点（30分）/16：10～17：10 すぐ役立つFIM活用法（60分）

申し込み方法：兵庫医科大学リハビリテーション医学教室ホームページ（<http://www.neuroreha.jp/seminar.html>）またはCRASEEDのホームページ（<http://www.crased.org>）のセミナー申し込み専用フォームよりお申し込みください。追って参加可否、受講料振込先などをお知らせします。

参加定員：600名（定員になり次第締め切り）

受講料：6,000円 *CRASEED正会員は20%引き、CRASEED賛助会員の施設職員は10%引き。

問い合わせ先：☎663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室
E-mail：office@crased.org

*CRASEEDは、日本作業療法士協会SIG認定施設です。